

一次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

※ カギ括弧・句読点などの記号も一字と数えます。

最近のデータを見ても、「和食」の世界的な広がりには驚くほどだ。むしろ日本人の方が①この実態を知らないといってもいいだろう。『日経ビジネス』（二〇一三年七月一五日号）には次のようなデータが紹介されている。

「世界の日本食レストランの数は、この三年で二倍近く（三万店が五万五〇〇〇店に）増加」

「従来の寿司だけでなくラーメン、カレーなどにもすそ野が広がる」

「好きでよく外食する外国料理は？の質問に、イタリアと中国では四分の一の人が『和食』と答え、韓国、フランス、香港でもナンバー一」

「二〇〇二年時点で二・二兆円だった日本食の市場規模は、二〇二〇年には最大六兆円に」

様々な業界で「ガラパゴス化」「衰退化」が言われる日本経済にあって、まさに「食」だけは別世界の勢いなのだ。

A、その躍進の秘密はどこにあるのか。子細にこの状況を見ていくと、②一つのトレンドがあることに気づく。

それは、世界の大都市に生まれている和食レストランの経営者は日本人ではなく異文化の人が多いという点、そして、日本人に違和感のないテイストの店であって、かつ外国人に受け入れられるメニューを開発している店が増えているという点だ。

トライベッカ界限の和食レストランでも『ノブ』を除けばあとは外国人 A タンドク経営の店が多い。店の名前を見れば、③日本人の感覚とはかけ離れているから一目瞭然かもしれない。イギリスでは、回転寿司の最大手『ヨースシ』の経営者がイギリス人だ（前掲、日経ビジネス）。二〇一三年六月、ロンドンの飲食業界の話題は、このチェーン店が発売した「ライスバーガー」の大ヒットだった。発売一週間で一万個を売り上げたこのヒット商品の中味は、「キムチ風味のサーモン」「コリアンダー風味の豆腐」等、日本人の味覚や食感、想像力からはなかなか生まれてこないものばかり。この辺にも、外国人の経営するレストランの特徴がよく表れている。

こうした店名やメニューを見ると、日本の方は X をひそめるかもしれない。 B 、実際に店を

訪れてみるとわかるのだが、④最近の和食レストランの最大の特徴は、かつてのように「外国映画に出てくる典型的な古くさい日本のイメージを押しつける」ものではなくなっている。赤い壁、提灯、富士山の絵、着崩した着物のウェイトレスといった、西洋人お イ トクイの中国と日本の ウ クベツがつかないワンパターンではなく、世界の最先端をいくお洒落な内装で、「和食レストラン」で働くことに誇りを持ったアメリカ人の店員たちがスマートにきびきびと働いている。料理の エ ナイヨウや食べ方の質問に対しても、彼らはアルバイトでありながらきちんと言明できる。ことサービスに関しては、日本にあるレストランの方が学ぶことも多いくらいだ。

『ヨースシ』の開店は一九九七年。ローリング・ストーンズの公演の照明マンだったイギリス人が、日本にツアーで訪れた際に、回転ベルトの上を寿司が廻る「回転寿司」に魅了されたのが始まりとか。

C、最近のトレンドは、⑤「東洋のエキゾティシズム」としてのジャパンではない。ソニーやホンダ、トヨタ等の最新工業技術や、マンガ、ニンテンドー、アニメ等の世界が憧れるサブカルチャーが生まれた「クールな」国としてのジャパンを オ ニンチする世代が生んだ「和食ブーム」なのである。

（辻芳樹「和食の知られざる世界」より）

注

トレンド・・・流行。

テイスト・・・味わい。

エキゾティシズム・・・異国情緒。異国趣味。

問一 二重線部アゝオのカタカナを漢字に改めなさい。

問二

A

C

 にあてはまる言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ もしくは ウ つまり エ だから オ では

問三

X

 に体の部位を表す言葉を入れ、

X

 をひそめる」という慣用表現を完成させなさい。

問四 傍線部①「この実態」とはどのようなことですか。本文中から七字で抜き出さない。

問五 傍線部②「一つのトレンド」とはどのようなことですか。本文中から二つ探し、それぞれ初めと終わりの五字を答えなさい。

問六 傍線部③「日本人の感覚とはかけ離れている」とは何を指して言っていますか。本文中から七字で抜き出さない。

問七 傍線部④「最近の和食レストランの最大の特徴」として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 過去と現在の日本がどちらも楽しめるお洒落な内装になっているということ。

イ 日本だけではなく、中国最先端のお洒落な内装デザインをも追求しているということ。

ウ アルバイトを多く使い、コストを削減することで、内装の充実に繋がっているということ。

エ 世界の最先端をいくお洒落な内装で、仕事に誇りを持った店員が働いているということ。

問八 傍線部⑤『『東洋のエキゾティシズム』としてのジャパン』とはどのようなことですか。本文中から二十字以内で抜き出さない。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

※ カギ括弧・句読点などの記号も一字と数えます。

たんぽぽ 川崎洋

たんぽぽが

たくさん飛んでいく

ひとつひとつ

みんな

--

 があるんだ

グリちゃんは、なんにも見ないですらすら書いて、パントマイムみたいに一輪挿しの綿毛たんぽぽを無言でもう一度みんなに見せた。

《

--

 》の中の言葉は、なんだと思いますか？》

ア シツモンを書いて、わたしたちを見回した。

「知るかよ」

「詩なんてウザイよ」

「これ、点数つくの？」

大騒ぎは続いていたけど、わあわあ言う声は、しだいに、黒板に書かれた詩についてのことになっていくようだった。

「連想ゲームです。思い付いた言葉をぱっと言ってください。正解でなくてもいいんです。思い付きが大切なんです」

グリちゃんの声が通るほど、①教室はいつの間にか静かになっていた。

「命」

「種」

「夢」

「仕事」

「イ キボウ」

当てられもしないのに、みんなが次々と発言した。

グリちゃんは「あ、いいな」とか、「すーい」とか、「なるほどねえ」とか言いながら、全部の言葉をそのまま丁寧に板書した。

わたしは、ずーっと **A** してた。

わたし、正解を知ってる。《ありんこ文庫》というのが近所にあって、そこのおばさんが、ウ キョネン、たまたま小さな子どもたちに読んであげてた詩だった。わかりやすく、楽しい詩だったから、覚えてた。

（正解は、名前……！）

叫びそうになったけど、やっぱり、声は出なかった。

十人くらいが次々と発言したけど、正解は、なかった。

②わたし、嬉しくて、胸が苦しくなった。

「この詩は、こんなふうに続きます」

グリちゃんが板書した。

おーい たぽんぽ

おーい ぽぽんた

おーい ぽんたぽ

おーい ぽたぽん

川におちるな

グリちゃんは、最初から通して読んで、

「どうですか？」と、一人一人を見回した。

わたしの目も、しっかり見つめてくれた。

③わたしの目、もどかしくて泣きそうになってたと思う。

だけど、グリちゃんは、だれにも当てない。だれかが手を上げるまで、

「わかった！」

さっとハヤちゃんが手を上げた。

「正解は、名前。——当たり前でしょ？」

ハヤちゃんが立ち上がって叫んだ。ほんとに嬉しそう。

「どうしてわかったの？」

「たぽんぽ、とか、ぽぽんた、とか、綿毛一つ一つの名前でしょ？」

「そう、そう。でも、よくわかったわねー」

「簡単、簡単。おーいって、呼びかけるところで、わかったんだけど、——あのね、じつはね、ぼくのお

ばさん、《ぽんた》って言うあだ名なの」

ハヤちゃんは突然④甘えた声になった。

「げっ、おまえのおばさん、たぬきかよ」

コースケ君がからかった。

「そういえば、たぬきの名前って、たいていぽんただね」

なんて、グリちゃんもくだらないこと言って、教室は大騒ぎになった。

和気あいあいって感じ。ついさっきの陰悪なムードが、うそみたいだった。⑤みんな、ころころ変わ

るから、なかなかついていけない。わたし、ほんと、どんくさい。

「しかし、みんな、詩人ですね」

ゴリちゃんは、⑥笑いすぎの涙を拭きながら、ピンセットで綿毛を一本一本つまんで、「はい、命」とか、「はい、きぼう」とか言いながら、一人一人に エ クバって歩いた。ハヤちゃんには「はい、ぽんた」って。霧島さんには「はい、沈黙」って言ったみたい。

すると、みんなが、ちっぽけな綿毛を大切そうに両手で包んで受け取って、愛おしそうに見つめてた。ユーカたちまでが……。

⑦「はい、溢れる思い」

ゴリちゃん、にこっとして、わたしには、こっそり、そう言ってくれた。

わたしのもどかしい思い、ちゃんとわかってくれたんだと、全身に電流！

(夢じゃないかな……)

わたし、優しいっぽいの オ コウケイが信じられなくて、泣きそうになった。

(ハヤちゃんは、「命」。シラリーは「きぼう」。コースケ君は「仕事」だって。ふふふ、なーんか、夢、ないなあ。―ああ、「夢」って言ったのは、ユーカ……)

わたしは国語の授業が終わってから、教室の隅の席についたまま、バリアーも張らずに「たんぽぽ」の詩とみんなの発言を何度も思い返していた。

たんぽぽの綿毛一本一本を、風に飛ばされないようにそっと両手で受け取るみんなの仕草と表情は、別人のように優しかった。

(ほんと、みんな、優しいのかな……)

霧島さんやマッさんは、相変わらず黙りこくって無表情だったけど、わたし、一瞬、人間たちを信じられるような気分になって、その日一日、しあわせだった。

(後藤竜二「12歳たちの伝説1」より)

問一 二重線部アㄣオのカタカナを漢字に改めなさい。

問二 A . B にあてはまる言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア にここに イ ムカムカ ウ ひやひや エ ドキドキ

問三 傍線部①「教室はいつのまにか静かになっていた」とありますが、それはどうしてですか。その理由を十五字以内で答えなさい。

問四 傍線部②「わたし、嬉しくて、胸が苦しくなった」とありますが、それはどうしてですか。その理由として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア みんなが正解することができず、ざまあみろと思ったから。

イ みんなが正解することができず、正解を知っているのが自分だけだと分かったから。

ウ みんなが正解できなかったことを喜んでしまった自分に後悔したから。

エ 正解を知っている自分が、いつゴリちゃんから指名されるのか期待して待っているから。

問五 傍線部③「わたしの目、もどかしくて泣きそうになってたと思う」とありますが、それはどうしてですか。その理由を二十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部④「甘えた声になった」とありますが、このときの心情として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア てれくささ

イ みじめさ

ウ うれしさ

エ かなしさ

問七 傍線部⑤「みんな、ころころ変わる」とありますが、何から変わるので。適切な言葉を本文中から六字で抜き出さない。

問八

傍線部⑥「笑いすぎの涙」とありますが、涙を流すほど笑った理由として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すぐに雰囲気が変わる子どもたちにあきれてしまったから。

イ みんなの答えが子どもらしくてかわいかったから。

ウ ハヤちゃんの甘えた声がおもしろかったから。

エ おばさんのあだ名の話でみんなで盛り上がり、楽しかったから。

問九

傍線部⑦「『はい、溢れる思い』」とありますが、どうして「わたし」にはこの言葉を伝えたのですか。その理由を解答欄の空欄にあてはまるように二十字以内で答えなさい。

【解答欄】「『わたし』から、（ ） 思いが溢れていると感じたから。」